

個人山行

屋久島：宮之浦岳

- ◆日程 2020年3月20日(金)
- ◆メンバー L：大山
- ◆天候 晴れ

屋久島と種子島の仕事が舞い込んだ。ちょうど三連休の週であったため、屋久島登山の計画をした。屋久島には営業小屋はないが、避難小屋が点在しているため、可能であれば山中泊による登山をしたかったが、さすがに宿泊装備を持って行くこともできず日帰りでの計画となった。

宮之浦岳への日帰り登山は淀川登山口から入するのが一般的である。登山口まではバス等の公共交通機関がない。バス利用の場合、紀元杉BS終点で降り約1.4km歩くことになり、さらに早朝のアクセスができない。今回はレンタカーを利用し、淀川登山口に向かった。5:40登山口に到着した時には10台程度の駐車スペースはほぼ一杯で、最後の一台という感じでどうにか駐車することができた。

淀川登山口の標高は1,368m、目指す宮之浦岳は1,936mと単純な標高差は570m程度しかないが、洋上のアルプスといわれるように距離は長くアップダウンが多い、かなりハードなコースである。ただし、登山道はかなり整備されており、道標は要所に設置されており道迷いの心配は全くなく、木道や階段もかなり設置されていて、高い技術が要求されることは少ない。注意が必要なのは今回登頂した、黒味岳、栗生岳、宮之浦岳、永田岳はすべて頂上付近が岩場、それも大きな岩が頂上となっており、ロープがかかっている箇所も何か所かある。わずかな距離ではあるが、クライミング的な要素もあるので慎重にピークを踏む必要がある。

最初のピーク黒味岳は標高1,831mの岩峰で、これから目指す宮之浦岳はもちろん、見下ろすと海に浮かぶ口永良部島まで望める素晴らしい眺望であった。その後は、数個のピークを横目にアップダウンを繰り返して栗生岳へ登る。こちらも大きな岩が特徴のピークで標高は1,867mと黒味岳と大差ない。黒味岳からここまで約2時間、ずっとアップダウンを繰り返してきたことになる。そして、ようやく九州最高峰の宮之浦岳1,936mに登頂。山頂からは360°の展望が開け、海上に浮かぶ種子島はもちろん、はるか北方には円錐形がきれいな開聞岳まで見る事ができた。



その後、永田岳1,886mまで足を延ばし、淀川登山口まで戻る。往復の登山のため、単純な下りではなく多くの登り返しが待っている。距離も長く、登山口に戻ったのは16:38であった。移動距離は約17km、累積標高は1,782m、行動時間10時間40分のハードな登山ではあったが、晴天に恵まれ最高の登山であった。(記：大山)

CT：淀川登山口 5:59 - 淀川小屋 6:28 - 花之江河 7:42 - 黒味岳 8:25 - 宮之浦岳
10:40/10:51 - 永田岳 11:51 - 宮之浦岳 12:57 - 花之江河 14:44 - 淀川小屋
16:00 - 淀川登山口 16:38